

日本イギリス哲学会 第51回 関西部会例会

日 時：2014年12月27日（土）14：30～17：45

場 所：キャンパスプラザ京都 京都大学サテライト講習室（6階・第8講習室）
交通アクセスは裏面の図でご確認ください。

報 告 1：14：30～16：00（討論を含む）

報 告 者：豊川 祥隆（京都大学大学院 人間・環境学研究科博士課程）

題 目：無差別の自由とヒューム哲学

報 告 2：16：15～17：45（討論を含む）

報 告 者：竹澤 祐丈（京都大学）

題 目：思想史学の課題と通史的記述の諸相

なお、各研究報告の要旨は、添付の別紙をご覧ください。

例会の後、簡単な懇親会を予定しております。こちらにもどうぞお気軽にご参加ください。

また、来年4月（予定）の部会報告をご希望の方は、以下の担当者あるいは事務局までお申し出ください。

関西部会担当

久米 暁（関西学院大学、exkume@kwansei.ac.jp）

竹澤 祐丈（京都大学、Takezawa@econ.kyoto-u.ac.jp）

（◎を@に直して下さい。）

<会場案内>

キャンパスプラザ京都 京都大学サテライト講習室（6階・第8講習室）

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る

（ビックカメラ前、JR 京都駅ビル駐車場西側）

TEL 075-353-9111



＜日本イギリス哲学会 第51回関西部会例会 報告要旨＞

報告 1：無差別の自由とヒューム哲学

豊川 祥隆

『人間本性論』第二卷第三部は、自身の哲学体系にもとづいて、ヒュームが自由や行為について論じる箇所である。その第二章において、ヒュームは、「無差別(indifference)の自由についての感覚ないし経験」を「誤った」ものだとし、必然性の原理にもとづいた「自発性(spontaneity)の自由」が真の自由であると認める(T.2.3.2.1f)。一方で、ヒューム哲学の基礎的方法は、知識のもととなる観念が由来するところの印象を要求するというものである。しかしこの手法は、「無差別の自由についての感覚(印象)」が見出されているにもかかわらず、それを退けるヒュームの議論と相容れないように見える。本報告では、印象と観念の枠組みと規則の枠組みの関係を踏まえつつ、以上の問題について考察を進める。最終的に、ヒュームが「言葉の混同」以上の前提を利用していることを明示するとともに、ヒューム哲学が無差別の自由に対してとりうる、より整合的な立場を提示したい。

(京都大学大学院 人間・環境学研究科博士課程)

報告 2：思想史学の課題と通史的記述の諸相

竹澤 祐丈

本発表では、思想史学の存在意義や、学問分野としての必須条件とはどのようなものであるのかを考えてみたい。このような「時代がかった」問いは、トマス・クーンに従うならば、新しい学問分野が確立する際に頻繁に問われるものであり、すでに成熟産業となっている思想史学に関してこのような問いを投げかける有意性はあまりないという批判を受けるかもしれない。このような批判を念頭に置きつつ、そしてまた近年に出版された、思想史をその書名に含む通史的記述や英国史のいくつかについて論評しながら、これから求められるであろう思想史学のかたちを議論したい。その際の発表者の議論は、発表者自身が育てられてきた諸前提、すなわち(経済学研究の一部としての)社会思想史の現状を主として念頭に置き、そしてまた、近代イギリスを主たる検討素材とする。具体的には、近年の英国史に関する近接分野の知見をどのように参照すべきか、そして通史的記述の多くが自覚的・無自覚的に前提とする、疑似コスモポリタニズム的問題枠組みの有意性などについて批判的に検討することになる。

(京都大学)